



産地紹介：新潟県 JA新潟かがやき  
～初夏の訪れを楽しむ野菜！  
JA新潟かがやきの「そらまめ」～

新潟かがやき農業協同組合  
黒崎園芸センター 桜井 健一

1 産地の概要

新潟かがやき農業協同組合（以下「JA新潟かがやき」という）は令和4年4月1日にJA北蒲みなみ、JAささかみ、JA新津さつき、JA新潟みらい、JA越後中央の5JAが合併して誕生した県内最大規模の農協である（図1）。

管内は、穀倉地帯である新潟平野を有し、西は美しい日本海に面する。また、霊峰やひこやま 弥彦山、かくだやま 角田山を抱き、広い平野と山あり川ありの豊かな自然に恵まれた立地を生かし、さまざまな農業が営まれている。

令和4年度の農産物販売金額は米203億8000万円、果実54億3000万円、野菜

45億5000万円、花き・花木19億7000万円、畜産8億4000万円、雑穀8億1000万円、全体で339億8000万円となっている（図2）。

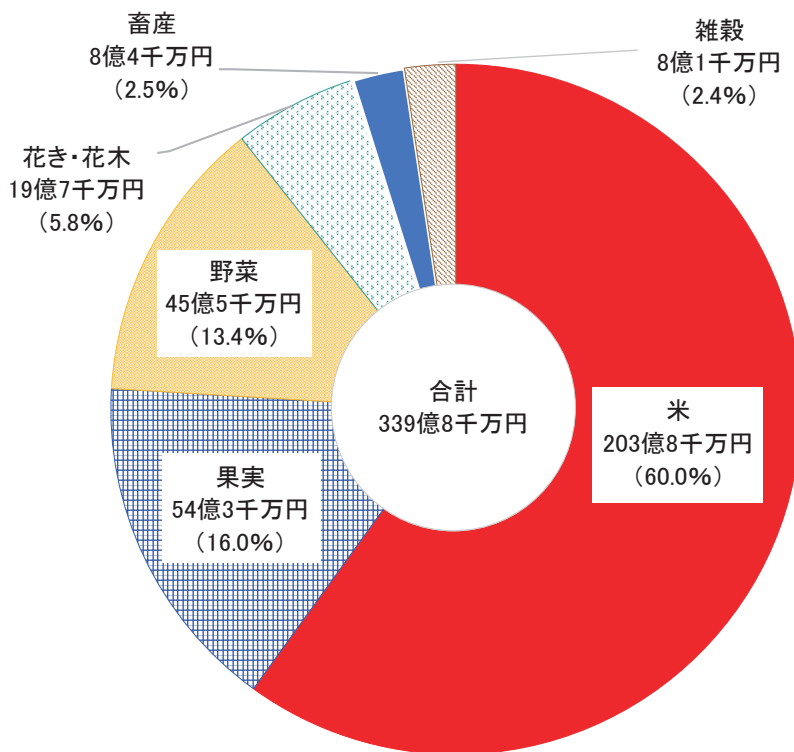
農業者の高齢化と、就農人口の減少が続く中、JA新潟かがやきでは、指導・販売事業が一体となって営農指導、産地育成、地産地消などを推し進めており、持続的な地域農業のために、農業振興に取り組んでいる。また、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」につながる事業展開を進めるため、営農指導体制の強化による「農畜産物の有利販売」「生産コストの低減」を基軸とした戦略にも取り組んでいる。

図1 JA新潟かがやき位置



資料：JA新潟かがやき

図2 JA新潟かがやきの販売事業取扱高（令和4年度）



資料：JA新潟かがやき

## 2 黒埼園芸センター管内の栽培状況

旧JA越後中央内にある黒埼園芸センター管内では、えだまめ、ブロッコリー、そらまめなどの栽培が盛んであり（表1）、新潟県内でも上位の作付面積および出荷量を誇る。

そらまめは連作障害が発生しやすいため、栽培する圃場を休ませたり、ブロッコ

リーやカリフラワーなどと組み合わせた輪作の1品目として栽培している。

農業者の高齢化と就農人口の減少により、生産者は減少傾向にあるものの、JAからの園芸作物への生産奨励や市場からの出荷量増加の要請などもあり、出荷量はここ2年間は横ばいで推移しており、令和5年の出荷者数は85人となっている（表2）。

表1 黒埼園芸センター管内の主な栽培品目出荷実績（令和5年度）

品目	出荷者数 (人)	作付面積 (ha)	出荷数量 (t)	販売金額 (千円)
えだまめ	156	83	264.4	222,688
ブロッコリー	105	44	426.3	130,479
カリフラワー	18	8	134.1	24,986
ねぎ	25	1.6	34.7	10,689
そらまめ	85	2	25.1	10,973
その他品目	36	—	15.1	3,609
合計	—	—	899.6	403,424

資料：JA新潟かがやき 黒埼園芸センター

表2 そらまめの作付・出荷実績

	令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
出荷者数 (人)	99	91	83	85	85
作付面積 (ha)	1.8	2.1	1.8	2.2	2.0
出荷量 (t)	28,4	34,3	17,7	25,1	25,1
販売金額 (千円)	11,840	11,345	7,855	11,546	10,973

資料：JA新潟かがやき 黒崎園芸センター

### 3 生産の概要

管内でのそらまめの主な作型は、10月上旬に播種し、5月中旬から6月上旬に収穫する初夏採りが主流である(図3、写真1、2)。

品種は、3粒さや以上の着さやに優れた一寸タイプの「打越一寸」が9割を占めるが、L品率を増やすべく、より3粒さや以上の着さやが見込める「唐比の春」も使用している。

雪や晩霜の影響を避け、安定した収量を

確保するため、11月下旬から4月上旬にかけて、トンネル被覆を行っており、保温効果の異なる2種類のトンネル資材(有孔ポリエチレンを使用したポリトンネル、割繊維不織布を使用したトンネル)を活用することで、収穫時期に若干の差がつくよう栽培している。

また、そらまめはアブラムシが発生しやすいため、特に、トンネル被覆前の防除を徹底するなどの管理を行っている。

図3 そらまめの栽培カレンダー

時期	栽培様式	10月			11月			12月			1月			2月			3月			4月			5月			6月		
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
作型	ポリトンネル	○		△																								
	割繊維不織布トンネル	○		△																								
		は種		定植																								

資料：JA新潟かがやき 黒崎園芸センター

主茎除去・・・根元から伸びる分枝(わき芽)の成長を促すため主茎を株元から摘み取ること。

分枝整理・・・風通しや日当たりを良くするために、生育の良い強い分枝(わき芽)を6~7本残し、それ以外を除去する作業。



写真1 そらまめの圃場



写真2 初夏に収穫されるそらまめ

#### 4 収穫作業

そらまめの収穫適期は、さやの背筋が黒褐色になり、濃い緑色の光沢が出始めて、さやが下を向いた頃である。さやを指で軽く押して、実の入り具合を確認するととも

に、2～3さやを試しもぎし、収穫適期のしるしである中の豆のお歯黒部分に薄く線が入っているのを確認してから、手作業による収穫作業を開始している（写真3）。



写真3 さやの背筋が黒褐色になり収穫適期を迎えたそらまめ



## 5 出荷の概要

そらまめは収穫後の鮮度劣化が早い  
ため、収穫は涼しい午前中に行っている。生  
産者による収穫後、JAの出荷規格基準（表  
3）に基づき、規格ごとに選別・箱詰めし  
ている。出荷比率は、M品が1番多く  
（50%）、次いでL品およびS品が約25%  
ずつとなっている。

JAに出荷されたそらまめは、品質低下  
を防ぐため、30分程度真空予冷した後（写  
真4）、主に関東市場や県内市場へ出荷し  
ている。収穫期間が短いため、短期集中出  
荷になるが、出荷規格の遵守を徹底してい  
るほか、消費者の手元に届くときにおいし  
い状態のそらまめを届けられるよう未熟さ  
やで収穫していることから、市場からも高  
い評価を得ている。

表3 そらまめの出荷規格基準

計量区分	選別基準	調製	容器	量目
L	品質良好で適熟な1さや 3、4粒正形 (4粒1欠/さや) 35g以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異品種は混ぜない。</li> <li>・日焼け果を除く。</li> <li>・病害虫果を除く。</li> <li>・未熟・過熟果を除く。</li> </ul>	段ボール箱	4kg (正味) (皆掛け重4.7kg)
M	品質良好で適熟な1さや 2粒正形 (3粒1欠/さや) 25g以上			
S	品質良好で適熟な1さや 1、2粒正形 (2粒1欠/さや) 17g以上			

## そらまめの出荷規格

**A品**

① 35g以上

(3粒) (4粒)  
・4粒1欠

---

② 25g以上

(2粒) (3粒1欠)

---

③ 17g以上

・1粒・2粒・2粒1欠で未熟粒は出荷できない。

**B品**

しみ

※変色莢はB品

**規格外**

(しみ) (きず) (日焼け)

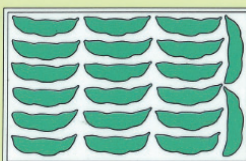
(虫くい) (未熟)

※切り口はハサミで切り、へた長は5m/m程度

(A品のシミの限界) (適熟) (未熟)

・親指でかかれる程度のシミ等

**箱詰めの方法**



- ① きれいにならべ方向をそろえる。
- ② 横ならべとし、横ならべのできなくなったところから縦ならべとする。
- ③ へたの方向をそろえる。  
(Sはそろえなくてもよい)

資料：JA新潟かがやき 黒埼園芸センター



写真4 黒埼園芸センター管内の真空予冷施設

## 6 販売戦略

当産地では、毎年作付け前に農業普及指導センターと連携して栽培指導会を行っている。前年度の生育調査結果の周知や栽培暦・病虫害防除指針を作成し、今年度の栽培対策などを行っており、その中で生産者同士でも情報交換を行いながら、好事例を参考に栽培し、品質向上に努めている。

また、出荷前には今年度の生育状況と出

荷規格の確認を行うため出荷説明会（目合わせ）を開催し、選別の徹底を図り、産地全体で統一した良い品物を出荷できるように取り組んでいる。

高齢化などにより生産者は減少しているが、L品率が上がる品種の導入や栽培の工夫を行い、安定した収量と収入が確保できるよう取り組んでいきたいと考えている。

### ◆一言アピール◆

そらまめは1粒が約1寸（3センチ）ほどの大きさのものが主流で、これらは「一寸<sup>いっすん</sup>そらまめ」とも呼ばれます。さやが空に向かって成長することから、「空豆（そらまめ）」。蚕が繭を作る時期に食べるから、繭の形に似ていることから、「蚕豆（そらまめ）」。そらまめにはさまざまないわれがあります。

新潟のそらまめは、出回り期間が短く、5月中旬～6月上旬の約1カ月間程度しか出荷されません。特にその中でも5月の終わり頃から6月上旬の1週間程度が出荷のピークで、あっという間に出荷が終わってしまいます。

塩ゆでしてそのままでもおいしく、クリームやマヨネーズとも相性の良い食材です。新潟では夏になるとえだまめをたくさん食べる習慣がありますが、えだまめのシーズン前に旬の短い新潟のそらまめのタイミングを逃さずぜひご賞味ください。

### ◆お問い合わせ先◆

担当部署：新潟かがやき農業協同組合 黒埼園芸センター  
住 所：〒950-1122 新潟県新潟市西区木場53  
電話番号：025-377-2811  
FAX番号：025-377-0456